

けです。

良心の全身に充滿する丈夫の出でんことを、と言う新島先生の願いが、日本国のため、日本国家のための線を乗り越えて、世界に貢献せんための意図が含まれていたものと私は考えたのです。

大正八年も暮れんとする十二月半に私は同志社の本部の給仕として勤めることを以て同志社人の第一歩を印したのですが、その翌々年でしたか海老名弾正先生を総長に迎えた、たしか六月頃だったか、全学生に對するメッセージを現在本部のある有終館の石段の上からその前庭に集った学生に向つて、美しいあごひげを撫しながら国際主義を述べられてその就任の挨拶とされた。その時は中学に編入していたので三年生の少年でした。その国際主義という英語が私の耳底に残つて今も忘れられないものとなつております。海老名先生はあまり新島先生の感化を深く受けていないように言つておられました。私はどうも新島先生の中における愛国的な面よりも国際人世界人としての面に、識らずして影響を受けて

おられたのではないかと思います。私どもの大先輩の深井英五氏も何かの時、同志社の教育は良心教育と国際人的感覚の教育と英語教育である、と言つておられたように記憶しております。確かに同志社人が国際的な舞台で日本に貢献しており、日本を高めて従つて人間を高めておることは他のいつれの私学にも劣らないのではないかと思います。その深い根はやはり聖書の持つ人間像の中にあるのだと思います。

ちっぽけな日本の国とか、日本国家のためとか言っている時代ではない。真に日本の発言を高く評価させ正しく受け入れさせるのは、実に世界に貢献し人間を高めるために、と言う教育と生活態度の中から出て来るのではないのでしょうか。

日本の国土の美しさを守る、日本の立派な文化を世界に正しい姿で紹介することにかけては先頭に立たねばなりません。特に京都に住む者の責任を感じます。だからといって石庭的な人間をわれわれが育てたり、われわれ自身がそれに浮身をやつしたりすべきでない。

(校友・平安教会牧師)

良心碑

川島寛治

(女子中高教諭、体育)

寒梅や筆あととどむ良心碑

花八つ手童女受洗の刻待てり

× × × ×

合宿旗氷塵に裂け潔し

懸崖を攀つるたしか息白し

風垣の果てや噴煙天を貫く

榎明り土間にたて置く救護櫓

雪原の白き闇裂き星とべる

月明の氷壁剥り滝落ちぬ

月残り氷壁蒼く夜明けたり

日輪や氷壁を射る鷹の影

か る た

上 野 務

いささか季節はずれの話になるが、岩倉では新春かるた大会が恒例になっている。主として「小倉」をとるのであるが、ほかに聖書がらゐる・万葉がらゐる・近代百首などあり、さらに近頃では忍者がらゐるたまでとっている。これらのうち、「万葉がらゐる」と「近代百首」は国語科の教員が中心となり、生徒諸君との協同の製作になるものである。「……ここだもさわぐ鳥の声かも」とか「やは肌のおつき血しほに触れもみで……」とか朗々とよみ上げると、「小倉」とはまたちがった味があつて楽しいものだ。かるたと同時に「投扇」といって扇を投げて箱の上の起き上がりを落とし、その扇のこけ方のよさを競うという風雅な遊びもある。これは点のよび方も夕顔とか花散里だとか源氏物語の巻々の名前であることになつていてまことにみやびやかなものだ。これは意外と高橋勘校長がうまい。

「小倉」は横綱下村福氏をはじめ大関には上田堅一郎・高橋哲郎両氏などそうとうたる所がならんでいる。いつでも他流試合ににんじめるから自信ある向きは申し込んでいただきたい。生徒諸君もなかなか強い。いま時の生徒に小倉など無縁の存在のように思われるのだが、毎年こちらがたじすするような名手が二、三人はいるものだ。ホームルームなどで取らしてみても、案外面白がつてやつてゐる。

さて今年は「狂歌小倉」を作ってみようということになった。

これやこの行くも帰るも満員の知るも知らぬも押し合いのバス
食べらるる身をば思はずふとりてし豚の命の惜しくもあるかな
青物屋にうち出でてみれば白菜やねぎの高ねにつりはへりつつ
名にし負ふ家重代のたからもの人に知られで売るよしもがな
心あてにはじかばいらむパチンコやおきまどわせる釘のかずかず
あひびきの約束すらし赤電話長々し間をひとりかも待つ

世界をめぐる

松 井 英 子

(経済学部 松井七郎氏夫人)

世界をめぐる旅ゆきかへりわれは見し不毛の砂漠泥の河など

カイロ郊外夕貧しく人住みて灯ともし泥の家ありしなり

ナイルは誰に富をもたせしナイル河畔人は貧しく歩みてゐたり

ゲートの家歩道に面しゐしことをふともひしなり道歩みゐるて

夜の飛行暗きに瞬(ひら)いたまたひらくをりをり膝なる毛布すれきて